

日米ジョイントフォーラム2018

健康なときから、死に到るまで —医療・福祉はどう関わるのか—

わが国のヘルスケアの機能分化は、北米のそれが歩んできた道と同じだと私は思います。過去30余年、北米のヘルスケアを視察してきて、最近、殊に感じることで。毎年、本フォーラムではそれを追ひ、古くはクリティカルパスからここ数年のLTACに到るまで、いち早く採り上げ、わが国でも現実となってきたことを誇りに思っております。今年、介護医療院とSNF、さらには医師のバーンアウトの問題を採り上げながら、広く将来のわが国のヘルスケアのあり方をご提案したいと思っております。

総合司会：岡田玲一郎 逐次通訳付き

第1部 10:00～11:00 「急性期後(PAC)から死への病院、施設の役割(機能)」

岡田玲一郎 社会医療研究所 所長

「死は敗北」という伝統から、「死は栄光」でもあるという、大きな社会変化について、私なりの考えと、現実の動きを報告します。



第2部 11:10～12:15 「米国でSNFがなぜ必要とされたか」

Ms. Kimberly Corrigan SNF Pearlview施設長

ナースの枠にとどまらず、SNFを経営運営されてきた私が尊敬するKimberlyさんの現場の苦闘や喜びを語られます。わが国でも学習になる話になると思います。



第3部 13:00～14:30 「米国のヘルスシステムの推移と今後の展望」

Dr. Donald S. Sheldon 前ユニバーシティ ヘルスシステム プレジデント/
前EMH ヘルスシステム プレジデント

Dr. Lee Pickler ボールドウィンワラス医療経営学教授／経営学博士、プロジェクト管理専門家

ヘルスケアシステムの中核で、さまざまな苦労を経験されてきたDonald Sheldon医師の、生々しい話をご期待下さい。また、わが国でも問題となっている医師の残業問題、それに付随したバーンアウトの問題もピックラー氏と言及されます。



第4部 14:30～16:30

【2月17日 大阪会場】「これからのわが国の病院の推移と機能分化への期待 ～18年度医療介護報酬同時改定&地域医療構想をふまえて～」

池端幸彦先生 日本慢性期医療協会 副会長

日慢協の中核としてさまざまな制度に取り組み、精進されておられる池端先生のお話に期待しております。



【2月18日 東京会場】「日本医療の大胆な転換を」

武久洋三先生 日本慢性期医療協会 会長

私の個人的な見解ですが、わが国のここ数年のヘルスケアの変化は、武久先生の主導されたものと思っております。「大胆」がキーワードですね。



※各講師のプレゼンテーションの内容についての文責は岡田にあります。

【主催】 社会医療研究所 (〒114-0001 東京都北区東十条3-3-1-220 電話:03-3914-5565 FAX:03-3914-5576 E-mail: smri@mvi.biglobe.ne.jp)

【共催】 一般社団法人日本慢性期医療協会 日本長期急性期病床(LTAC)研究会
はあとふるグループ医療法人永広会 社会医療法人ペガサス馬場記念病院

【後援】 一般社団法人大阪府私立病院協会

※申込及び申込キャンセルの締切日は
2/9(金)です。

< 大阪会場 >

日時: 2018年2月17日(土)

10:00～16:30 (受付開始9:30)

会場: 毎日インテシオ ※地図は裏面参照

参加費 7,000円

< 東京会場 >

日時: 2018年2月18日(日)

10:00～16:30 (受付開始9:30)

会場: 全国町村会館 ※地図は裏面参照

参加費 8,300円

※東京会場の参加費は、お弁当代込です。

お申込み方法及び会場の詳細は裏面をご覧ください。

